

資本の流入と、物価為替基準

令和6年9月5日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

世界における GDP の基準は資本基盤における国内での消費とそれに伴う物価の構築がこれら国内 GDP の形成を与えると考える。

これは金融というライフラインを基盤とした自国経済の構築がグローバル市場における自由貿易システムとともに、実体経済の構築を与えるものであると考える。

これらは世界における資本という現実が、その目的とともに、金利政策に限定されない資本の移動を与え、それら現実が新たな経済の実態を形成するものと考ええる。

これらは明らかに新たなグローバル経済の真実であるならば、国内における産業政策の基盤としての理解を提案できるのである。

また経済における安全保障が、自国経済の保護と排他性を有することは明らかな真実である。これらは自由貿易システムの健全性とは相反するものである。

これらは経済の全体的な底上げであり、物価上昇の原因と考えられる。これらが相対的に GDP の上昇を与え、グローバル化における新たな経済構造への転換を与えると考えられるのである。

これら資本という現実が相対的に次世代産業の株式への投資を与え、これらが世界の株式市場を牽引し、今日の株式の上昇を与えられるのである。

これら現実において要求されるのは、自国経済の独立性の確立であり、それに伴う経済安全諸將の構築である。これらが先端産業の育成と自己資本における自国経済の保護を与えるのである。

これらはグローバル経済の有する資本力という基盤と次世代産業への転換への正しい経済政策なのである。これら経済の健全性は、グローバル経済の崩壊においても自国経済の維持を実現できるのである。